

問題一

次の(1)～(10)の——線部の漢字にはその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- (1) 茶道は日本文化のテンケイだ。
- (2) ヨクジツの準備をして寝る。
- (3) 駅までのシヨヨウ時間を調べる。
- (4) 新しく店をカマえる。
- (5) あたたかいシャワーをアびる。
- (6) あの生き物は外来種だ。
- (7) みな一様にうなづく。
- (8) 生徒を率いて山に登る。
- (9) 時間とともに風船が縮む。
- (10) つちかった技を極める。

問題二

次の四字熟語について後の問いに答えなさい。

- ① 直入
- ② 応報
- ③ 絶後
- ④ 雷同
- ⑤ 知新

(1) ①～⑤に入るふさわしい言葉を【A群】から選び、漢字に直して答えなさい。

(2) 四字熟語の意味としてふさわしいものを【B群】のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

【A群】

インガ オンコ クウゼン タントウ フワ

【B群】

- ア 今までも、これからもないと思われるくらいまれなこと。
- イ 自分の考えがないため、他人の意見に軽々しくしたがうこと。
- ウ 自分の行いの良し悪しに応じた結果が必ずあらわれること。
- エ 昔のことを調べて、現代のことを理解すること。
- オ 遠回しに言わずいきなり大事な話を始めること。

問題三

次の(1)～(5)の()にあてはまるもつともふさわしい言葉を後のア～ケから選び、それぞれその記号で答えなさい。

- (1) 母は、あと十分ほどで帰って() ます。
- (2) 兄がかいた風景画を() ますか。
- (3) 父が、一度先生に() たいと申しおりました。
- (4) このねこは、タマと() ます。
- (5) お飲み物はコーヒーに() ますか。

ア	いい	イ	拜見し	ウ	ごらんになり
エ	なさい	オ	おっしゃい	カ	まいり
キ	いただき	ク	お目にかかり	ケ	いらっしゃい

問題四

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(問題の都合で本文の一部を変えています。)

桃と妹の鞠は、母親(愛子)が中学の時の同級生(昇留)と再婚したことで「木佐貫」姓を名乗ることになりました。次期病院長の昇留は仕事が忙しかったため、姉妹は昇留との関係を深められずにいます。そんな中、検査で母の肺に影があることがわかりました。がんの再発を疑い、母親が検査入院をするなど不安な日々が続きます。検査結果が出る日、学校が終わるとすぐに桃は病院に行こうとします。しかし病院に行く前に好きな人にバレンタインチョコを渡したい鞠と言い争いになり、桃は一人で病院を訪れます。

桃はドアをノックした。返事がないのでノブを回してみると、鍵はかかっていない。そうっと入って室内を見回した。革張りの椅子には、ひじ掛けがついている。広いテーブルには、どんとデスクトップパソコンが据えられ、その横には今日の郵便物と思しき封筒の山が積まれている。

外で女兒の声が聞こえる。
 「ちょんまげ先生は、病院お泊りするの〜?」
 桃はドアのすきまから廊下を見た。パジャマを着た幼い少女が、看護師と手をつないでいる。
 「うん、よくお泊りするよ」
 答えているのは、義父の昇留だった。① わ……桃はのけぞりそうになった。義父の髪型がおかしい。前髪から頭頂部にかけての髪を輪ゴム

でたばねて、お侍さん風になっているではないか。

「じゃあ、ベッドはどこにあるの〜?」
 「ベッドはないんだ」
 「え〜、じゃあ、どこでねるの〜?」
 「ねないんだ。先生は、スーパーマンだから」
 「え〜、じゃあ、ずーっと起きてるの〜?」
 「病院にいる間は、ずーっと起きてるよ」
 「おうち帰ったら?」
 「スーパーマンをお休みして、普通の人に戻るから、ぐっすりねる」
 昇留は、両手を合わせて、それをまぐらのように右ほつぺたに寄せて、目を閉じる。それが、乙女っぽいしぐさに見えて、桃はAを見開いた。家で話すいかめしい義父と同一人物には到底思えない。
 あははは、と少女は声を出して笑っている。
 「じゃあね、君も早めにねるんだよ」
 「ちょんまげ先生も、おうち帰ってねるんだよ」
 看護師に手を引かれて去っていく子供に、昇留はずっと手を振り続けている。
 観察しているうちに、昇留は向きを変えてみるみる近づいてきて、ドアを押し開けた。
 「わ……」
 逃げる間がなくて、ドアの角に桃は額をぶつけた。
 「ごめん! こんなところにいるとは思わなくてな」
 昇留が謝る。② 桃は早口で答えた。
 「あの、ナースステーションの方に、こちらで待つようになって」
 「あ、うん。ちょっと待ってて」

昇留はぷいと出て行ってしまった。一分後、お茶の入った紙コップを二つ持って戻ってきた。

「これ」

「ありがとうございます……ございます」

「ちゃんまげは、まだそのままだ。」

「さつき、おれが患者としゃべってるの見てたね？」

「はい……」

「キャラが違うの、バレちゃったか」

「えっと……」

「医者らしくない。威厳がない。よく言われるんだな。けど、子どもを笑わせたいからさ」

「じゃあ、その髪も笑わせるために？」

「あ」

あわてて昇留は輪ゴムをはずしている。

「いや、これは気合いを入れるときのだな……。単に前髪が邪魔だから」

「お母さんに、似てる」

「ん？」

「お母さんもノーテンキで。お義父さんもそういうところあるんですね？」

「いやいや……ああ、そうだ。お母さんといえね、もう退院したんだよ」

「え」

「夕方まで君たちが来るのを待つっていうから、そんなことしなくていいからって、ぼくが帰したんだ。家でゆっくり休んだ方が良かった。まあ、座って」

一年後、二年後と様子見はずっと続いて行くのかもしれない。それでもいいと桃は思った。想像していた悪い知らせに比べたら、百倍も、千倍もいい。

自己免疫疾患でもない可能性だってある。校庭をすつと横切って去っていくカモメの影のように、肺の影も静かに消えてくれることを願った。

「じゃあ、お母さんはここに帰って行った？」

「ああ、ほっとした顔でね。ところで鞠は？」

「あの子は、まだ学校」

「そうか」

「今、メールで知らせるね。きつと喜ぶ」

桃は携帯電話を開き、ごく事務的に検査の結果を文章にした。

「君らの母さんが、君らにメールして知らせようかと言ってたんだ。けどな、ぼくは職業柄、こういうのは短い文面で簡単にやりとりするようなことじゃない、と思って。それで来てもらったんだ」

「じゃあ、鞠にメールしない方がいい？」

桃はいったん携帯電話を閉じたが、連絡すると伝えたのを思い出した。

「いや、かまわないよ」

③「ほんと鞠になんか、心配させとけばいいんだけど」

そう言いながらメールを送信すると、昇留はAを丸くした。

「君はそういう厳しいことを言わないだと思ってたよ。めずらしいこともあるもんだ」

「だって……。お母さんのことより優先する用事なんて、ほんとはないでしょ。いくらバレンタインっていったって」

そう言われて、桃はデスクのそばにある二脚の椅子のうち一つを引き寄せた。

「気になってるだろうから、結論から言うと」

桃は息を詰めた。

「経過観察ということになった」

「経過……観察」

昇留も椅子に腰かけた。さつきまで結わえていた髪がまだ落ち着いていなくて、ボサボサと宙に浮いている。仕える主君を探してさまよう浪人のような風体だ。

「つまり、影の正体がよくわからなかったんだ」

「よくわからない？」

病気をもっと明確に否定する力強い言葉がほしかった桃は、頬をふくらせてBを表明した。

「影があるのは事実なんだ。ただ、とにかく腫瘍ではないし、以前撮ったCTには写ってなかったから結核でもないし、気管支系でもない。もしかしたら自己免疫疾患かもしれないんだが、自覚症状が全然ないから、判定できないんだって。つまり――」

パチ、と手を合わせて昇留は続けた。

「経過観察。またの名を推定無罪。次は半年後に検査をすることになった。つまり、転移ではないし、新しいがんでもない、という結論なんだよ」

「ほ、ほんとに？」

(注1) 風体…様子。

(注2) CT…身体の断面を撮影し、体内の病巣を発見する検査。

「なるほど。バレンタインか」

昇留は深くうなずいてから、勢いよく立ち上がった。車輪のついた椅子は、すーっと後ろへ流れて壁に音を立てて当たった。

「そう。今日、バレンタインだったか。鞠は誰かにチョコを渡すというわけだな。気に入らん。いや、ぼくが急に父親面するのもおかしい話なんだが」

桃は、いつの間にか流れ出していた涙をそっとふいた。けれど、意外と目ざとい義父に気づかれた。

「君は、お母さんのニュースに喜んで、泣いて、でも鞠に怒ってるわけだな？」

「だって……お母さんのことほったらかしにして」

④昇留がブラインドを開けた。しかし窓の外に見えるのは、敷地内にある倉庫と塀だけだった。院長室というのは、もっといい景色のフロアにあって、院長はふんぞりかえっているものだ。桃はイメージしていたが、昇留は違うらしかった。

「ぼくは、チョコレートを渡す推奨派では決していない。むしろ鞠の相手はどんなやつなんだ。どうせろくでもない男なんだろう、って気になってる」

桃は、圭機の顔を思い浮かべた。どうせろくでもないホワイトライオンですよ、と、彼はにやりと笑うだろうか。

咳払いしてから、昇留は続ける。

「だがな。そういう鞠みたいな部分、桃にも少しはあってもいいのか」

(注3) 推奨…ある事物または人をほめて、他人にすすめること。

(注4) 圭機…桃と鞠の友人。

もしれないな、と思うぞ。あ、告白しろと言ってるわけじゃない。ただ、お母さんが検査入院して、いろいろ『それどころじゃない』ときにも、日常生活を続けていく強さ、というのかな」

「日常生活を……続けていく……？」
頭に入ってこない。

【6】

昇留は、壁際の本棚から丸めたポスターを取り出し、するすると伸ばした。子供向けの人体の説明だった。

「これ、筋肉」

「あ、はい」

「たとえば足を見てごらん。ふくらはぎの筋肉は、何本も何本も何本も、並行して走ってる。それが日常生活だと仮定してみよう。桃の場合だと、家族がいて、学校のクラスがあつて、部活——はやめちゃったんだっただけ、委員会があつて、小学校のときの友達がいて。それらは並行して、君の生活のなかにある」

「はい」

「ある日、ふくらはぎが肉離れを起こしたとする」

「肉離れ」

「筋肉が一部、切れてしまうケガだ。治るのに長い時間がかかる」

「ふうん……」

「たとえば今回、お母さんが病気の可能性あつて、心労があるなか、君は家事も引き受けてくれた。ヘルパーさんを断って、やってくれた。大変だったろう。申し訳なかったと思う。ただ、それでも、日常は続いてく。たとえば、誰かにチョコを渡したいと思つた。何

「そのままできてくれたほうが話しやすくいいな」

「そうだったのか。⑧ ちえ、結局同じなんだな」

「何が？」

「実は、ちょっと前まで、病院でも重々しくふるまってたんだ」

「え、そうなの？」

「医者ってそういうもんだと思つてたからさ。けど、愛子に久しぶりに会つて、昔みたいに普通にしゃべれて。そしたら、愛子が『そういう態度で接してくれるお医者さんって、緊張しなくてありがたい』って言うてくれてな。それで、おれ、病院でもやっと地を出し始めたんだ」

「そうだったんだ……」

申し合わせたわけでもないのに、お母さんと同じようなことを言つていた。その事実、桃の心はほわんと温かくなってくる。

「自分でも気づかない長所、見つけてくれる人つてありがたいな。人間って、自身のことは何でもわかつてるつもりで、^(注5)存外視野が狭いんだ」

「そうか、そうだね……」^⑨ 桃は、義父の言葉がどんどん広がって、巨大な風呂敷のようになって、自分を包み込んでくる気がした。

—— 吉野万理子『いい人ランキング』

(注5) 存外：思いがけないこと。意外。

か月前からそのつもりで、いろんなことを考えてきた。だとしたら、あきらめないでほしい。あきらめちゃいけない。なぜって、筋肉は、またいつかはつながって、痛みは消えていくんだ」

「う……ん」

「痛みが消えたとき、自分がたくさんのことを犠牲にしてきたことに気づくと、後悔する。痛みを抱えながらも、時は進んでいく。人生の流れは止まらない。だから、この先、母さんに、義父さんに、あるいはまわりの友達に、いろいろあつたとして、君自身の日常も大切に続けてほしいんだよ」

しばらく押し黙って、やがて桃はふかくうなずいた。

「わかった」

ポスターを床に放り投げ、^⑦ がしゃがしゃと、昇留は両手で髪の毛を引っ掻き回した。

「ああ、また父親ぶってしまった。ちよんまげ星人とバレってしまったのに」

桃はくすくすと笑って、ポスターを拾った。そして丸めていく。

「このノーテンキな正体は、もう少し鞠にはナイショにしてくれないか。あと少し、立派な父親風に振る舞ってみたい」

「あたしたちは、立派なお父さんより、楽しいお父さんのほうがうれしかも……」

「ええっ、そうなのか？」

「お義父さんって、もつと怖い人だと思つて。なんで、お母さんと気が合つたのかなって。でも今日わかつた」

「ふたりとも本当はノーテンキ」

問一 — 線部①「わ……桃はのけぞりそうになった。義父の髪型がおかしい」とありますが、なぜ桃は「のけぞりそうになった」のですか。その理由がわかる一文をぬき出し、最初の五字で答えなさい。

問二 Aに入れるのにふさわしい漢字一字を答えなさい。

問三 — 線部②「桃は早口で答えた」とありますが、ここからわかる桃の様子を説明したものととして、もっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 昇留が急に部屋に入ってきたことに驚く一方で、勝手に部屋に入ったことを昇留は許さないといい、必死で言い訳をしている。

イ 昇留が急に部屋に入ってきたことに驚く一方で、様子をこっそりうかがっていたことを知られたといい、気まずく感じている。

ウ 昇留が急に部屋に入ってきたことに驚く一方で、親しみを感じられない父へのうとましさから、できる限り接触を避けようとしている。

エ 昇留が急に部屋に入ってきたことに驚く一方で、母の検査がどのような結果になったかが気になるあまり、緊張してうまく話せないでいる。

問四 Bに入れるのにもっともふさわしい気持ちを表すことばを漢字二字で答えなさい。

問七 — 線部⑤「鞠みたいの部分」とありますが、これは鞠のどのような性質を指していますか。それを説明したものととして、もっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 母の入院という不安なことがあったとしても、自分の大切なものをゆずらない強さ。

イ 母の病気が再発する不安があったとしても、学校での付き合いを優先する計算高さ。

ウ 母の入院で家事が増えるなど不安定な生活になっても、毎日規則正しく生活していく忍耐強さ。

エ 母の不在で皆が家事をせねばならない時も、責任感の強い姉に任せきりで生活を変えない頑固さ。

問五 — 線部③「ほんとは鞠になんか、心配させとけばいいんだけど」とありますが、ここから桃のどのような気持ちが分かりますか。本文中のことばを使って三十字以内で答えなさい。

問六 — 線部④「昇留がブラインドを開けた。昇留は違うらしかった」とありますが、この部分からわかる桃の変化としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 桃は、家族をかえりみない昇留に不信感を抱いていたが、実は昇留は家族との関係作りに無器用なだけだったと気づき始めた。

イ 桃は、よそよそしい昇留の態度から検査結果を心配していたが、問題ないと教えてくれたことで昇留に信頼が生まれつつある。

ウ 桃は、威厳のある昇留に対し距離を感じ、近寄りたく思っていたが、実は優しく温かい一面があることに気づくようになった。

エ 桃は、家でいばっている昇留に苦手意識を抱いていたが、その理由がわかったことで、昇留への警戒心も少しずつ薄れつつある。

問八 ⑥の部分のたとえ話を通じて昇留が言おうとしていることはどのようなことですか。その説明としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

ア 人は様々な集団に属しており、その関係は常に同時進行だからこそ、一つの関係が行きづまっても他との関係を軽視すべきではないということ。

イ 人は友人や家族など多くの人と関係を築いているが、その関係は他の関係と交わることはないため、だれかとうまくいかなければならぬ関係を切ることも必要だということ。

ウ 周囲の人を心配するあまり自分を後回しにすると、後になってその選択を悔やむ日がくるから、自分らしくあることをあきらめるべきではないということ。

エ 今までの何の問題もなかった関係が突然悪化し苦しい日々が続くとしても、時間をかけることで関係を築き直し、問題を乗り越えられるようになるということ。

問九

——線部⑦「がしゃがしゃと、昇留は両手で髪の毛を引つ掻き回した」とありますが、ここからわかる昇留の様子を説明したのもとして、もつともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア すでに威厳のない姿を見られてしまっているのに、さとすようなふるまいをしていたことに気づき、恥ずかしくなっている。

イ 信頼関係がないのに素の姿を見られてしまった焦りから、父親らしくあろうと説教をしてしまったことに気づき反省している。

ウ 患者から敬われていないと知られてもなお、父として生き方を語る自分がひどくこっけいであることに気づき、後悔している。

エ 父として娘に伝えたいことがあるのに、無様な姿を見られたせいで思うような父親としてふるまえないことを苦しく思っている。

問十

——線部⑧「ちえ、結局同じなんだな」とありますが、ここで昇留は何に気づいたのですか。その説明としてもつともふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 愛子や桃が言うように、父親にしても医者にしても、装った偽りの人格で人と信頼関係を作ることにはできないということ。

イ どんなに取りつくりつたとしても結局は見抜かれるのだから、最初から装わない方がいいと愛子や桃から教えられたという事。

ウ 愛子や桃に好かれるように自分なりに格好よくふるまっていたはずなのに、二人からは近づきにくい存在だと思われていたということ。

エ 「父」や「医者」はこうあるべきという考えにしばらくはいたが、ありのままの自分を出す方が良いと愛子や桃から教えられたということ。

問十一

——線部⑨「桃は、義父の言葉がどんどん広がって、巨大な風呂敷のようになって、自分を包み込んでくる気がした」とありますが、ここからどのようなことがわかりますか。ふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

ア どんな人でも長所を見つけれられる母のやさしさを知り、母を誇らしく思った。

イ 自分の何気ない言葉を昇留に受けとめられ、大事にされると実感できた。

ウ 母親が見つけた昇留の美点を思いがけず自分も見つけ、うれしくなった。

エ 昇留と母の共通点を見つけたことで、昇留に対して親近感を覚えた。

問題五

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(問題の都合で本文の一部を変えています。)

スマホは私達の生活を変えました。

あなたは、スマホを持つ前と持った後で、何が違いましたか？

友達のSNSの写真を見て、どう思いますか？

「ああ、素敵すてきだな」と思いますか？ それより、「なんて楽しそうなんだ。それにひきかえ、自分の生活はみじめだ」「みんなはどうしてこんなに幸せそうなんだ。なのに自分は……」「友達の派手なSNSの写真正は見たくない」と思ったりしませんか？

① インターネットでつながることが、かつては希望でした。でも、今はつながることが、重荷とか苦痛になっていると僕は思っています。

多くの人とスマホでつながることで、ますます孤独こどくを感じるようになっていくのです。

考えてみれば、変な話です。多くの人とつながればつながるほど、楽しくなったり、安心したりするのではなく、孤独や不安になるのです。

② スマホは不幸なことに、「世間」を「見える化」しました。

自分がどんな「世間」にいるか、どれぐらい「世間」からハジキ飛ばされているか、「世間」は今どうなっているのか、を目に見える形で示すのです。

同時に、スマホはあなたの自意識をどんどん増大させます。

自意識というのは、「周りに自分のことがどう思われているんだろう

(注) SNS：インターネットを通じて会員同士が交流をするサービス。

たくさんフォローやビュー、「いいね」が欲しくて発言します。

多くの人に認められれば、自分は「何者かになった」と思えるからです。

昔のマスコミと違って、簡単に有名になれるインターネットでは、だからこそ、有名ではない自分、何者にもなっていない自分は許せません。

みんな、「自分はこんなレベルじゃない」と思っているのです。

④ だから、みんな、「何者かになりたくて」、発信を続けます。

でも、ネットでは、上には上がいます。何かを発言しても、すぐに否定されてしまいます。

マニアぶって、マンガや映画、小説のことを書いても、すぐに誰かに否定されます。

「何者にもなれない」自分を突きつけられるのです。

でも、こういう時、絶対に否定されない言葉があるのを知っていますか？

それは、「正義の言葉」です。

「20歳未満なのにお酒を飲んでる人を見つけた」「高校生なのにタバコを吸っている写真をアップしていた」「信号無視をしていた人がいた」「自転車で道路いっぱい横一列に並んで走って迷惑」

こういう文章をSNSに書いても、否定されません。ネットで見つけて、堂々と告発すると、まるで自分が「何者かになった」ような気分になれます。だから、⑤ 最近、「正義の言葉」を発信する人が増えてきました。

でも、こんな形で、「何者かになろう」としても、幸せにはなれないだろうと僕は思っています。

ずっとインターネットをさまよひ、観察し、告発し続けたいといけな

と思う意識」のことです。

スマホはあなたの評価を数字で表します。

何人のフォロワーがいて、いくつの「いいね」がついて、どれくらい見られているのか。

それが、リアルタイムで表示されるのです。

これで、自意識とうまくつきあえるというのは、ものすごく難しいことです。あ

僕の十代は、もちろん、スマホなんかありませんでした。テレビや新聞・雑誌しかなかったので、注目されるにはかなりのことをしないとダメでした。

十代で自転車で日本一周したとか、世界30カ国を訪れたとか、小説を出版したとか、簡単には実現できないことでしか、評価されませんでした。い

けれど、スマホの時代には、簡単なことで発信できて、何人かのフォロワーがついて、反応が返ってきます。

どれぐらい自分は注目されているのか、昨日より今日の注目は増えたのか減ったのかをスマホはいちいち教えてくれるのです。う

③ これは、麻薬まやくです。うまくつきあわないと、自分の評価だけが気になります。自意識がどんどん大きくなって、「人からどう思われているか」だけを気にするようになってしまいます。

でも、「人からどう思われているか」というのは、「空気」ということです。毎日、コロコロと変わる、不安定な評価です。

「空気」を生きる目標にしてしまうと、安定しない、不安な毎日を送ることになってしまうのです。え

いのです。とても疲れる人生だろうと思うのです。

誰かを憎み、告発することを基本にするのではなく、⑥ 自分を認めること、つまり、「自尊心」を高めることを目標にしたほうがいいと思います。

SNSに写真や文章をアップするのは、「正義の言葉」でも「人の評価」でもなく、あなたがそれを「好きかどうか」「やりたいかどうか」で判断するのは、断ずるのです。

「人の評価」だけが動機になると、本当につらい人生になると思います。僕は作家ですが、「読者が気に入るかどうか」だけでは作品は書けません。もちろん、読者が気に入ってくれば嬉しいですが、その前に「自分は書きたいのか」「自分は面白いと思っているのか」という大切なハードルがあります。

このハードルをちゃんとクリアしないで、「読者が気に入るかどうか」だけを考え始めると、人生は不安定になり、不幸になると思っ

です。だって自分の人生を決めるのは、自分であって、「他の人が評価するかどうか」ではないからです。

※

もうひとつ、大切なこと。

スマホを「世間」を強化する方向では使わないほうがいいと思います。

A、知り合いの楽しそうな写真を見たり、ラインやメールを何度も交換することを一番の目的にしないのです。

B、スマホの目的は何かと言えば、「社会」とつながることです。まだ見ぬ情報や人とつながることが、スマホの本来の使い方なのです。

もちろん、ネットは悪意と誘惑のかたまりです。気をつけないと、あなたをダメにする情報がたくさんあります。

スマホをまだ人類はちゃんと使いこなせてないのです。私達は、スマホという強力な呪文を覚えたばかりの魔法使い見習いみたいなものです。

自分を孤独にもできるし、可能性を広げられることもできるし、C、人を追い詰めて殺すことも、追い詰められて死にたくなることもできるのがスマホなのです。

大人でさえも、うまく使いこなせていません。

D、粘り強く接していけば、あなたをいい方向に変えてくれる素敵な情報や良質な人と間違いない出会うはずですよ。

ネットはあなたに、あなたにあった小説や映画、演劇を教えてください。あなたが、見てよかった、読んでよかったと心底思えるものを教えてください。

ネットは、世界の片隅で、必死に生きている人々を教えてください。あなたが感動する人間の存在を教えてください。あなたが旅すべき街を教えてください。

それは、^⑦あなたをあなたの「世間」から自由にし、息苦しさから救ってくれるものなのです。

—— 中略 ——

日本は素敵な国です。四季が豊かで、ハイテクと伝統とアニメなどのポップカルチャーに富んだ素晴らしい国です。

そして、同時に、とても同調圧力が強い国なのです。

この国で、同調圧力に負けないでちゃんと生きていくためには、知恵をつけることです。

そして、表面的な出来事に振り回されるのではなく、物事の本質を見つめることが大切なのです。

僕はこの国の本質は、「世間」と「社会」そして、「空気」に現れていると思っっているのです。

この考え方が、あなたを自由にし、生きていく支えになるのなら、僕はとても幸福です。

大人になっても、「世間」や「空気」から自由になれるわけではありせん。

でも、抑圧する「世間」、強すぎる「空気」を問題にしていけば、少しずつ、この国は変わっていくと僕は思っています。

あなたが、乱暴な先輩の頼みを断ったり、友達のふりをしているグループから抜け出したり、知らない人と「社会話」をすることは、あなたの戦いだけではなく、この国で同調圧力に苦しむ人々を応援することになると、僕は信じているのです。

あなたの戦いは、あなただけの戦いではない。そう思えば、グループからはじき飛ばされても、集団の中で孤独になっても、生きていけると思いませんか？

^⑧あなたの「世間」や「空気」との戦いを心から応援します。
—— 鴻上尚史『「空気」を読んでも従わない』

問一 —— 線部①「インターネットでつながることが、かつては希望でした」とありますが、なぜインターネットは「希望」をもたらすと考えられていたのですか。筆者の考えるインターネットの理想的な使い方を文中の※より後の文章から十五字以内でぬき出して答えなさい。

—— 線部②「スマホは不幸なことに、『世間』を『見える化』しました。」とありますが、これはどういうことですか。その説明としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

ア 自分が孤独や不安を感じている時に、周囲にそれを隠せなくなつたということ。

イ 自分が関わりを持つ人が、周囲からどんな評価をされているかがわかるということ。

ウ 仲良しグループの中であっても、親しさの度合いが異なることが明らかになるということ。

エ 関係ない他の人にも自分がどういう人と付き合っているかが分かつてしまうということ。

問三 この文章には次の一文がぬけています。文中のどこに入れるのがもつともふさわしいですか。文中のあ、えから選び、その記号で答えなさい。

ですから、マスコミに取り上げられること、有名になることを諦めることができました。

問四 —— 線部③「これは、麻薬です」とありますが、ここで筆者は何を心配しているのですか。その説明としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

ア 自分への注目度が数字というわかりやすい形で示され、他との比較も容易にできるため、有名になりたい、もつと評価されたいという願いが限りなく刺激されてしまうこと。

イ 自分の発信をきっかけに世界の色々な人とつながりを持つことができるが、自分に害となる情報に対しても無防備であるため、間違つた評価を信じ込んでしまうこと。

ウ 自分の発信したことの価値は「いいね」やフォロワーの数でわかると考えることで、良い反応が得られそうなことは何かを考えて発信するようになってしまうこと。

エ 本来、評価は変化しやすいものなのに、「いいね」の数が自分の価値だと考え、「いいね」の増減で自分の価値も増減したかのように感じてしまうこと。

問五 —— 線部④「みんな、『何者かになりたくて』、発信を続けます」とありますが、「何者かになる」とはどういうことですか。その説明としてもつともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 価値ある存在としてみんなから認められること。

イ 自分の理想とする人と全く同じ人になりきること。

ウ 家族や親しい友人から必要とされ尊敬されること。

エ SNSの世界にしか存在しない特別な人になること。

問六 — 線部⑤「最近、『正義の言葉』を発信する人が増えてきました」とありますが、これはどうしてですか。その説明としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

- ア 相手のあら探しをして正義の味方のようにふるまうことで、自分の犯した罪を隠せるから。
- イ 迷惑行為は世の中にもいつも存在しているため、探しさえすればネタに困ることはないから。
- ウ 迷惑行為をネットで告発することで、面と向かって注意できない自分の弱さに気づかずにすむから。
- エ 自分個人の意見には必ず反対意見が存在するが、法律や道徳を守る投稿に反対意見は生じにくいから。

問七 — 線部⑥「自分を認めること、つまり、『自尊意識』を高めることを目標にしたほうがいいと思っています。」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっともふさわしい一文をぬき出して最初の五字で答えなさい。

問八 [A]～[D]に入れるのにもっともふさわしいものを次のア～エから選び、それぞれその記号で答えなさい。

ア でも イ では ウ つまり エ そして

問十一 次の文章はSNSの「いいね！」ボタンについて若者の意見を紹介した新聞記事の抜粋です。授業で【問題五】の文章を読んだ後、この記事を読んでグループ討議をしました。生徒①～⑤の発言のうち、正しいものには○を、正しくないものには×を答えなさい。

「いいね！の数で生きる人生って」（東京都 小学生 Aさん）

私のクラスでは、SNSの「いいね！」の数で争っている。それぞれあげた写真はちがうのに、多い方が人気ものになれる。だけど私は一人一人基準が違うから争っても意味がないと思った。

例えば、ある人が和の風景をSNSにあげたとする。大人だったら和の風景はきれいに見えるかもしれない。けど、私のような小学生やそれより上の中学生、高校生は和の風景を「ダサ！」と言って、「いいね！」ボタンは押さない。人それぞれ良いもの悪いもの見分け方はちがう。だけど私のクラスに「いいね！」数を気にしすぎて暗い性格になってしまった子がいる。話すたびに「いいねが増えない」と言ってくる。私はその子がいいねの数で人生を生きている気がした。このままいったら暗い生活をずっと続けることになる。いいねボタンのいいところはなんだろうか。

問九 — 線部⑦「あなたをあなたの『世間』から自由にし、息苦しさから救ってくれる」とありますが、これはどういう意味ですか。その説明としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、その記号で答えなさい。

- ア 自分が生きている世界とは異なる世界や価値観があると知ること、周囲からの評価は絶対的なものではないと気づき、人からの評価に振り回されなくなること。
- イ 多様な価値観に気づくことで、周りの友人がいかにも仲間以外を認めていなかったかを知り、友人をつくることの無意味さに気づくようになるということ。
- ウ 色々な人の生き方や考え方を知ること、「世間」が自分に期待する通りにふるまわねばならないという強い思い込みから解放されるということ。
- エ 今まで知らなかった新しい知識を手に入れることで、自分の生きる世界の狭さに気づき、物事を多面的に見ることができるようになるということ。

問十 — 線部⑧「あなたの『世間』や『空気』との戦い」とありますが、これは言い換えると何との戦いと言えますか。文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

「誰かが見ている、実感できる」（滋賀県 中学生 Bさん）

私は今、SNSに絵を投稿している。主な作品はオリジナルのキャラクター。人気になりにくいジャンルではあるものの、見てくれる人が少しずつ増えてきている。とてもうれしいことだし、「いいね」の評価で自信も持っている。

しかし人というものはどうしても嫉妬心が生まれてしまうもので、上手な絵や人望で「いいね」をたくさんもらっている人を見るとうらやましくなる。別に、今の自分に不満があるわけではない。昔に比べると確実に上手になっているし、もっと腕をみがこうと頑張っている。だが、やはり自信作よりも有名キャラクターを使った人の絵に「いいね」がつくとさびしい気持ちになってしまう。

私の実力はまだまだだし、周りの人の方が上手なものも事実だ。けれど私は自分の絵に「いいね」がつくことで、誰かが見てくれているんだと感じたいのだ。

（いずれも 二〇一八年八月十一日 朝日新聞 より）

生徒①

Aさんのクラスメイトは常に「いいねが増えない」と言っているから、SNSに投稿する一番の目的は「いいね」をもらうことになっているんだね。これは本文の「『人の評価』だけが動機になる」状態と同じだね。筆者の言う通り「人生は不安定になり、不幸にな」っているように見えるね。

生徒②

そうだね。Aさんは「いいねの数で人生を生きている」ように感じる同級生を見て、「いいねボタンのいいところはなんだろうか」と疑問を述べているよね。筆者も「ネットは悪意と誘惑のかたまりです」と言っているから、どちらもSNSを使うことに否定的な考えを持っているんだね。

生徒③

Aさんは「一人一人基準が違うから争っても意味はない」と言っているよね。「いいね」の評価数より大切な人から認められることを重視すべきだと考えているんだね。筆者も、「評価より『いい方向に変えてくれる素敵な情報や良質な人』との出会いを大切にすべきだと述べているから同意見と言えるね。

生徒④

Bさんは自分のオリジナルの絵が評価されることが自信につながっているけれど、自分より「いいね」をもらう人を見ると嫉妬するとあるから、本文の「ネットでは、上には上がいます」というところと共通しているね。他の人を知ること自分への評価に満足できなくなるんだね。

生徒⑤

そうだね。でもそれだけじゃないよ。有名なキャラクターを描いた方が評価されると知っているけれど、高い評価をもらうことより、好きなことを投稿してそこに共感されることを大切にしているんだ。「好きかどうか」「やりたいかどうか」で判断する」ことを勧める^{すす}筆者の考えと一致しているね。

